

さけ・ます増殖管理推進事業調査（サケ関係）

（抄 録）

菊谷尚久

沿岸漁獲調査

1. 2001年漁期の沿岸回帰サケ親魚の旬別の沿岸漁獲量を集計した。
2. 2001年漁期の各海域での漁獲尾数は、太平洋816,072尾（前年比65.9%）、津軽海峡202,661尾（前年比98.8%）、陸奥湾内2,451尾（前年比46.5%）、日本海67,872尾（前年比130.9%）であった。青森県全体の来遊尾数（沿岸漁獲尾数+河川遡上尾数）は1,228,986尾であり、1984年以降の最低水準であった1999年に次ぐ低水準であった。

沿岸環境調査（太平洋におけるサケ回帰親魚の環境調査）

1. 2001年9月から12月の期間中、試験船による海洋観測を実施した。
2. 津軽暖流水の勢力は、最近の5ヵ年で比較すると強勢であり、9月は沿岸寄りを深めに南下し、10月以降では東方への張り出しを強めながらやや浅めに南下していたものと考えられた。
3. 親潮系水の沿岸への張り出しは、9月には八戸沖で観測されたものの10月以降はほとんど観測されなかった。

移動分布調査

1. 2001年4月から5月にかけて、青森県日本海、津軽海峡沿岸及び陸奥湾口部において、サケ幼稚魚の分布、成長及び移動に関する調査を行った。
2. 鰺ヶ沢沖56尾、小泊沖2,220尾、今別沖482尾、佐井沖80尾、脇野沢沖53尾の合計2,891尾のサケ幼稚魚を採集した。
3. 各海域で採集されたサケ幼稚魚の平均F.Lは、鰺ヶ沢沖71.0～87.9mm、小泊沖57.3～71.5mm、今別沖42.0～93.6mm、佐井沖55.5～100.4mm、脇野沢沖92.7～120.0mmの範囲にあった。
4. 標識放流は2001年3月12日に早期放流群150,000尾（平均F.L:58.4mm）、4月13日に適期放流群150,000尾（平均F.L:59.7mm）を赤石川サケ・マスふ化場より行った。標識魚の再捕状況は、鰺ヶ沢沖4尾（全て適期群）、小泊沖153尾（早期群151尾、適期群2尾）、今別沖5尾（早期群1尾、適期群4尾）の合計162尾が再捕された。

環境調査（日本海における放流稚魚の環境調査）

1. 2001年3月から5月にかけて、鰺ヶ沢町における毎日の表面水温及び塩分を測定した。また、沿岸3ヶ所（大戸瀬、小泊、今別）の地先に記録式MDS水温計を設置し、表層水温を連続して観測した。
2. 鰺ヶ沢における表面水温は、3月には昨年を0.5℃ほど下回っていたものの、4月以降では昨年をおおよそ0.5～2.0℃ほど上回って推移していた。また、春季の塩分量の低下は3月下旬から4月下旬にかけてみられた。
3. 大戸瀬地先における日平均表層水温を昨年と比較すると、3月はおおむね0.5～1.0℃ほど下回って推移していたものの、4月は昨年並～1.5℃ほど上回っていた。5月上旬以降は急激な昇温と降温を繰り返していた。日平均水温が13℃を超えたのは5月18日であり、昨年より10日遅かった。

発表誌名：平成13年度さけ・ます資源管理・効率化推進事業実施結果 平成15年3月 青森県